

## 第 48 回衆議院総選挙に向けた考え方と対応について(ご報告)

日頃の皆様方のご支援とご協力に心より感謝を申し上げます。またこの間、多くの皆様からご激励のお言葉を頂戴するとともに、ご心配の声をいただいております。厳しい状況の中で温かく見守り、ご支援をいただいていることに勇気づけられる日々です。ありがとうございます。

さて、9月28日付の報告書において党の方針をご説明させていただいたところで、時々刻々と取り巻く状況が変化しておりますので、ここに改めてこの間の動きと私自身の考えをご報告申し上げます。

過日の報告書に記載の通り、民進党から出馬を予定していた各候補予定者においては党本部の決定に基づき、希望の党での出馬に向けて調整が進むものだと信じ粛々とその準備を進めておりました。そのような中、9月30日に突然に希望の党が日本維新の会と選挙協力で合意した旨の報道がありました。

今日にいたるまで、民進党・希望の党、双方の本部から直接の説明も通達もない中で多くの仲間がその意味するところは何か、またそれぞれの候補予定者の取り扱いはどうなるのか、混乱と不安の中で大阪府連を通じて確認と要望を重ねてまいりましたが、前原代表からは終始一貫「希望の党からの全員の公認に向けて調整中だ」とのご回答しかいただけないまま時が流れました。

疑心と反発が広がる中で、枝野幸男元幹事長がその受け皿となる新党「立憲民主党」の設立を宣言されました。また大阪では希望の党は候補者を擁立しない旨が正式に公表されました。つまり大阪では民進党からも希望の党からも出馬ができないことが確定したことになります。

党本部の約束、これまでの人間関係、政策への思いなど、候補予定者ごとに複雑な心境がある中で、1)出馬を断念する、2)選挙区を変えて希望の党として出馬する、3)希望の党の比例単独候補をめざす、4)無所属で出馬する、5)立憲民主党で出馬する、という現実的には5つの選択肢の中で各候補は決断を迫られました。

民進党大阪府第8区総支部(豊中市)におきましては、松井博史総支部長(候補予定者)の決断を尊重することを確認しておりましたが、去る10月3日に松井氏より民進党を離党し、立憲民主党から出馬したい旨の報告がありました。松井氏におかれましては、翌4日付で民進党への離党届を提出し、あわせて立憲民主党への公認申請を行いましたので、その時点で報道を通じて皆様にご報告させていただいたところで、ここに10月6日付けで松井氏が立憲民主党より正式に公認決定を受けましたこともあわせてご報告申し上げます。

以上の経緯を踏まえた私の対応でございますが、まず私自身は現時点におきましても民進党に在籍したままであり、松井総支部長の離党を受けて、党大阪府第8区総支部の総支部長代行に就任したところです。

このたびの総選挙における民進党本部の方針は希望の党の支援です。しかし、この間、同じ想いをもって活動してきた経緯や大阪における特殊事情を踏まえ、民進党大阪府連としては地元の理解を前提に民進党所属議員・役員の立憲民主党候補への支援を容認する旨の方針が確認されています。また従前支援をいただいております連合大阪も松井候補予定者への推薦を正式に決定いただきました。

以上を踏まえ、私、白岩正三は、このたびの衆院選において、これまで活動をともにしてきた仲間である「松井博史」氏を支援することを決定いたしました。

皆様方のご理解を賜れば幸いです。尚、重ねてのご報告になりますが、私自身も含めて民進党所属の地方議員や党役員につきましては当面「民進党籍」のまま残ります。衆院選が終わった後に、順次希望の党へと組織再編していく旨の方針は示されておりますが、不透明な部分も多く、私自身の今後の対応につきましては「白紙」です。引き続きご指導とご支援を賜りますようお願いを申し上げ、現状のご報告とさせていただきます。

民進党 豊中支部長  
前 豊中市議会議員  
白岩 正三